

---

**「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント  
全国展開事業（教育地域拠点）」（平成29年度）  
実施報告書**

**岩手県教育委員会**

**平成30年3月**

## 目 次

### 事業概要

1	事前セミナー	2
2	授業実践報告	3
(1)	盛岡市立上田小学校	3
(2)	岩手県立福岡高等学校	4
(3)	盛岡市立厨川中学校	5
(4)	一関市立萩荘小学校	7
(5)	宮古市立山口小学校	9
(6)	山田町立豊間根中学校	10
(7)	奥州市立田原小学校	12
(8)	盛岡市立上田中学校	13
(9)	花巻市立湯口中学校	14
(10)	久慈市立山形中学校	16
(11)	岩手県立花巻南高等学校	17
(12)	一戸町立鳥海小学校	19
3	全国フォーラム	20
4	実践報告会	20

### 《推進校一覧》

		学 校 名
1	小学校	盛岡市立上田小学校
2		奥州市立田原小学校
3		一関市立萩荘小学校
4		宮古市立山口小学校
5		一戸町立鳥海小学校
6	中学校	盛岡市立厨川中学校
7		盛岡市立上田中学校
8		花巻市立湯口中学校
9		山田町立豊間根中学校
10		久慈市立山形中学校
11	高等学校	岩手県立花巻南高等学校
12		岩手県立福岡高等学校

「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業  
(教育地域拠点)」(平成29年度) 実施報告(岩手県)

1 事前セミナー

平成29年10月30日(月)、アイーナ(いわて県民情報交流センター)において「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業(教育地域拠点)」(平成29年度)事前セミナーが早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センターの友添秀則センター長、岡田悠佑研究員、日本財団パラリンピックサポートセンター広報部/推進戦略部の本山勝寛ディレクター、岩手県オリンピック・パラリンピック教育推進校より12名の先生方、各教育事務所担当者5名の参加のもと、下記のとおり開催されました。

【開催概要】

日 時 平成29年10月30日(月) 14時00分～16時30分

会 場 アイーナ(いわて県民情報交流センター)

主 催 岩手県教育委員会

協力機関 早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

参加者 25名

内 容

13時30分～ 受付

14時00分～ 主催挨拶

荒木田光孝(岩手県教育委員会事務局保健体育課総括課長)

14時10分～ 講義① オリンピック・パラリンピック教育について

友添秀則氏(早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター センター長)

15時20分～ 講義② オリンピック・パラリンピック教育の指導方法について

岡田悠佑氏(早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター 研究員)

本山勝寛氏(日本財団パラリンピックサポートセンター広報部/推進戦略部ディレクター)

16時10分～ 質疑応答

16時20分～ 連絡

はじめに、主催挨拶として荒木田光孝保健体育課総括課長より、昨年開催された「希望郷いわて国体」、「希望郷いわて大会」では、多くの感動を生み出し記憶に残る素晴らしい大会となったこと。また、2019年には、ラグビーワールドカップが釜石市で開催されること。このような中、本事業は、本県の子ども達にとって、スポーツの価値への理解を深めるとともに、規範意識の涵養、国際・異文化理解や共生社会への理解等を学ぶことができる絶好の機会であり、児童生徒の健やかな心身の育成に寄与するものと大いに期待している旨の挨拶がありました。

講義①では、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センターの友添秀則センター長からオリンピック・パラリンピック教育についてご説明いただきました。本事業の概要について、クーベルタン、嘉納治五郎の理念や新学習指導要領におけるオリンピック・パラリンピック教育の位置づけによりお示しいただき、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機にオリンピック・パラリンピック教育の推進によるスポーツの価値や効果について再認識してほしい旨、お話していただきました。

講義②では、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センターの岡田悠佑研究員、日本財団パラリンピックサポートセンター広報部/推進戦略部 本山勝寛ディレクターからオリンピック・パラリンピック教育の指導方法についてご説明いただきました。

岡田研究員からは、授業づくりのポイントとして、オリンピック・パラリンピックについての学びとオリンピック・パラリンピックを通じた学びがあり、具体的な事例等についてご紹介いただきました。また、事前学習と事後学習が効果的な授業に結び付くことについてご助言いただきました。

本山ディレクターからは、座学授業、実技授業における、子どもの興味関心を引き出し、心に届く教材として「I'mPOSSIBLE」の教材の特徴のご説明をいただきました。「Impossible（不可能）からI'mPOSSIBLE（可能）へ」についての教育的効果を認識してほしい旨をお話いただきました。



## 2 授業実践報告

### (1) 【盛岡市立上田小学校】

- ① 実施日時 平成29年12月19日（火） 10時35分～11時45分
- ② 対 象 6年生 57名
- ③ 派遣オリンピック 千田 健太 氏  
(フェンシング 2012ロンドンオリンピック男子フルーレ団体 銀メダル)
- ④ 事業内容 (実技)
  - 10時35分～ 校長挨拶及び講師紹介
  - 10時40分～ 実技体験
  - 11時30分～ 質疑応答
  - 11時35分～ 謝辞
  - 11時40分～ 記念撮影
  - 11時45分 終了

平成29年12月19日、盛岡市立上田小学校にロンドンオリンピックフェンシング競技男子フルーレ団体銀メダリストの千田健太さんをお招きし、6年生を対象としたフェンシングの実技体験を実施しました。

はじめに、近藤校長先生から千田さんの経歴等の紹介があり、その後、千田さんから本日の実技体験の内容についての説明をいただきました。児童は、3グループに分かれローテーションにより、フェンシン

グの練習用の防具とプラスチック製の剣を使用した実技体験、テニスボールやはちまきを使用したフェンシングの構えと動きについて学びました。フェンシング初体験の児童は、授業の最初から緊張気味でしたが、それぞれの実技のコツをつかむと徐々に緊張がほぐれ、意欲的に取り組む姿が見られました。

実技後、千田さんから中学1年生の時に地元のクラブチームに参加しフェンシングを始めたことや、陸上、水泳等の多くのスポーツに取り組んでいたことについてお話をいただきました。自分自身が何に向いているのか始めてみないと分からないので、小学校ではいろいろな経験をしてほしいとアドバイスをいただきました。

また、競技に臨むにあたり、利き腕を右効きから左効きに変え、食事の時は箸が持てなかった苦労やヨーロッパ、アメリカ選手との体格差を自分の得意技を磨くことにより解消して、メダルを獲得できたこと等の経験談をお話いただきました。今回の実技体験でフェンシングに興味を持った人は、是非フェンシングを始めてほしいし、フェンシング以外の競技にも興味を持って、将来に向かっていろいろなことに挑戦してほしいとメッセージを伝えられました。

最後に、千田さんからメダルが披露され、全児童が直接メダルを手にとりメダルの輝きを実感しました。



## (2) 【岩手県立福岡高等学校】

① 実施日時 平成30年1月16日(火) 14時20分～16時50分

② 対象 1～2年生 369名

③ 派遣オリンピック 杉本 美香 氏

(柔道 2012ロンドンオリンピック78kg超級 銀メダル)

④ 事業内容 (講演・実技)

14時20分～ 校長挨拶及び講師紹介

14時25分～ 講演「柔道を通じて学んだこと」

15時05分～ 実技体験

15時50分～ 質疑応答

16時00分～ 記念撮影

16時10分～ 柔道部員との交流

16時50分 終了

平成30年1月16日、二戸市に所在する福岡高等学校において、ロンドンオリンピック柔道競技女子78kg超級で銀メダルを獲得した杉本美香さんをお招きし、1・2年生を対象として講義及び実技体験を実施しました。

はじめに、杉本さんの経歴等について、佐々木校長から紹介された後、「柔道を通じて学んだこと」と題して、杉本さんから講義していただきました。杉本さんの講義では、柔道を始めたきっかけや、柔道から学んだこと、高校生に大切にしてほしいこと等、次の内容が話されました。

- ・ 小さい頃は、水泳、バスケットボール、ソフトボール、テニス体操、バレエと様々なスポーツに取り組んでいたが、小学5年生の時に柔道を見学する機会があり、人が人を投げることや、投げた時の振動に感動して柔道をやりたいと思った。それから柔道を始め、やめたいと思ったことは一度もない。
- ・ 現役時代はケガが多く、手術を5回しており、体のいろいろな部分にボルトが入っている。オリンピックに出場した時は、全身テーピングだらけで、膝の前十字靭帯が切れたまま出場した。ケガの治療のために入院した時、いろいろな人がお見舞いに来て励ましてくれた。その時に、オリンピックに出場することは、私一人だけの夢ではない（みんなの夢）と決め、表彰台の一番高いところに立つことで、応援してくれた人たちに感謝の気持ちを伝えられると思った。
- ・ 高校生の皆さんには夢を持ってほしい。また、夢や目標の実現を目指している過程が大事である。夢に立ち向かっている時に出会った人や、手を差し伸べてくれた人を大事にしてほしい。
- ・ 高校生の皆さんには、これからの人生で、「いろいろな選択の場面では、周囲の助言を聞きながら、自分自身で決断してほしい」、「人のことを思いやって手を差し伸べられるよう、他人のことに興味を持ってほしい」、「楽しい時も苦しい時も笑顔を大事にしてほしい」という3つのことを大切に頑張ってください。

続いて、実技体験では、柔道部の生徒10名と、柔道部以外で希望する生徒20名（体育で柔道選択）が参加し、実際に杉本さんを相手にして、受け身や投げ技、寝技をかけたりにかけられたりする等、貴重な体験ができました。また、杉本さんが、同行した元柔道選手を相手に数種類の技を披露した際には、その技のキレや畳から伝わる振動に歓声が沸きました。さらに、実際に獲得した銀メダルが披露され、手に取った生徒は、感触や輝きに感動を覚えるとともに、杉本さんの努力の価値も同時に感じる事ができました。



### (3) 【盛岡市立厨川中学校】

- ① 実施日時 平成30年1月22日（月） 13時30分～15時00分
- ② 対 象 1～3年生 635名 保護者

③ 派遣オリンピック 宮下 純一 氏

(水泳 2008北京オリンピック男子400mメドレーリレー 銅メダル)

④ 事業内容 (講演)

13時30分～ 校長挨拶及び講師紹介

13時35分～ 講演「出会いに感謝」

14時45分～ 質疑応答

14時50分～ 謝辞

14時55分～ 記念撮影

15時00分 終了

平成30年1月22日、北京オリンピック水泳競技男子400mメドレーリレー銅メダリストの宮下純一さんをお招きし、講演会を実施しました。今回の講演会は、盛岡市立厨川中学校70周年記念事業の一環として行われ、全校生徒、教職員及び保護者の皆さんの出席をいただきました。

はじめに、佐藤校長先生から宮下さんの競技経歴等について紹介がありました。その後、オリンピック代表選考会、北京オリンピックの映像が大型スクリーンに映され、銅メダル獲得後の宮下さんのインタビューの「続けてきてよかった」というコメントが印象的でした。

宮下さんからは、「出会いに感謝」と題して、5歳から水泳を始め、25歳でオリンピックに出場することができた20年間について、どのように水泳を始め、どのように成長し、オリンピックに繋がったのか、お話をいただきました。

講演会では終始、生徒に挙手をさせ質問形式で進められ、会場の生徒と一体となった温かい雰囲気で行われました。翡翠入りの銅メダルを披露しながら、子供のころは、水が大嫌いでした。シャンプーハットなしではお風呂に入れなかったことや幼稚園でもひとりプールに入れなかったことなど、水遊びができなかったが、その後、スイミングスクールに通い10歳の時に全国大会出場し第7位に入賞を果たした経験談を説明いただきました。

夢を叶えるためには、「CHALLENGE、CHANGE、CHANCE」の3つのCがあり、やるべきチャレンジが決まると自分の行動が変わり、自身の周りの人も変わる。そして、大きなチャンスが巡ってくることに、熱い言葉でご教示いただきました。

また、中学時代に水泳が嫌になった時に保健体育の教科担当の先生の言葉『壁は越えられる人に訪れる。俺はお前の超えるところを見たい』、大学進学時に父親の言葉『迷っても、最後は自分で決めろ。自分で決めた道なら、挫折しても納得できる。』の二つの言葉を紹介されました。

夢を叶えるためには、①明確な夢を持ち続け、諦めない、②人との出会いを大切にする、③自分の気持ち・意思を大切にする、④続けさせてもらっている精神、の4項目の大切さを強調されました。さらに、この中から未来のオリンピック選手が出てほしいこと、日本の未来を変えてくれるリーダーが出てほしいとメッセージをいただきました。

厨川中学校では、オリンピック・ムーブメントの事前学習として、1年生の体育の授業（体育理論）において、2016リオオリンピックで銀メダルを獲得した、陸上男子4×100mリレーの「アンダーハンドパス」を題材に、スポーツにおける技術、戦術、戦略を学びました。また、「おもてなしの心を持って、盛岡・青山（本校地元）の良さを発信する」のテーマのもと、盛岡市が開発の地である「ふじ」と震災復興を捉え直す意味で、陸前高田市米崎町の昨秋台風被害にあった落下リンゴ「ふじ」を一部使用して、厨中オリジナル・リンゴジャムを作るなど、積極的な学習が展開されました。



#### (4) 【一関市立萩荘小学校】

- ① 実施日時 平成30年1月23日(火) 9時40分～11時35分
- ② 対象 4～6年生 187名
- ③ 派遣元選手 福田 正博 氏  
(サッカー 元日本代表)

#### ④ 事業内容 (講演・実技)

- 9時40分～ 開会及び講師紹介
- 9時45分～ 講演
- 10時15分～ 質疑応答
- 10時25分～ 写真撮影
- 10時35分～ 謝辞
- 10時50分～ 実技
- 11時30分～ 講師挨拶
- 11時35分 終了

平成30年1月23日、一関市立萩荘小学校においてサッカー元日本代表の福田正博さんをお招きし、講演と実技が実施されました。

講演では、はじめに自己紹介そしてサッカーとの出会いについてお話いただきました。野球少年だった福田さんをサッカーに何度も誘っていただいた田中先生に出会っていなければ、サッカー日本代表の福田さんは生まれていなかったとのことでした。

続いてフェアプレーについて子供たちに問いかけ、規則を守ることだけではないことを話されました。大事なことは自分に関わるすべての人やものを大切に思うこと。チームメイトである仲間に対してはもちろん、対戦相手にも感謝の気持ちをもつこと。サッカーは対戦相手がいなければゲームができません。また審判にも感謝の気持ちを忘れないこと。学校でいえば先生。その際、審判にだって間違いがあること、それは人だからであり、先生だって間違うことがありそれを認めることが大切であるとのことでした。さらに、裏方として会場のメンテナンスやゲームの運営をしてくださっている関係者、学校でいえば、事務の先生や給食を作ってくださっている先生方などへの感謝を忘れないこと。そして、当然のこととして保護者への感謝を忘れないこと。ボールやシューズ、試合会場などのものにも感謝の気持ちを忘れないこと。



学校でいえば机や椅子、教室など、使い終わった後にはもっときれいに返すぐらいのことが大事であること。最後にはルールも大切にすることなども含め自分に関わる全てに感謝することがフェアプレーの精神の一つであることを話されました。

このことはわかっていることではあるが、できないことがあるため多くの人から指摘されることが多い。できない理由の一つとして心に余裕がないことがあげられる。心に余裕をもつためには体力をつけることが一番。そこで体力をつけるために必要なのは、よく寝ることとよく食べること。寝不足だったり朝食をとっていなかったりするとイライラするなど、攻撃的になり心に余裕をもてないことにつながる、つまり基本的な生活習慣が大事。スポーツ選手はみんなが大事にしていること。

次に運を引き込むことが大切であることを話されました。運は売っているものではないし、待っていても来ないもの。運を引き込むために、みんなにやってもらいたいことが3つ。1つは運がついていると思いい込むこと。自分に起きたすべての出来事に対して、例え怪我をしたとしても運がついていないと思わず、この程度で済んだ、運がついていると思うことが大事。そのために必要なのが言葉。初めから「無理、だめ、できない」という言葉を使わないこと。心の中で思っても声に出してしまうと行動そのものが変わってしまうとのこと。「ありがとう」はたくさん使ってほしい。一日一回でもいいから毎日使おうとするだけで人は変わってくる。2つ目は、縁を大切にすること。人は一人では生きていけないし多くの人に支えられて生きている。人を支えられる人になるためには、人の話を聞ける人になることが大切であること。そしてやっぱり笑顔。朝、鏡を見て笑顔をつくるだけでもいいから続けることで自分のところに人が集まってくるとのことでした。3つ目は、夢や目標をもつことの大切さについて話されました。明確な目標や夢をもてないことは悪いことではないし、夢や目標が変わってもよいが、夢や目標があると苦しいとき頑張れるし自分が何をすればよいのか明確にできるので、理想としては夢や目標をもつことが大切であることを話されました。

実技では、「指キャッチ」や「シェイクハンドパス」、「追いかけてドリブル」に取り組み、児童の心と体がほぐれたところで「ボールキャッチだるまさんが転んだ」に挑戦。福田さんがボールをキャッチしている間は止まること。児童は1チーム10人程度で前の人の肩をつかみ一列縦隊でゴールを目指します。動いたり肩から手が外れたりしたら自己申告によりスタート地点からやり直すこと。はじめは福田さんの動きに騙され、やり直したチームが続出したものの徐々にゴールラインを通過するチームが出てきました。福田さんからは、最後にこのゲームで心一つにすることの大切さについて伝えられました。



(5) 【宮古市立山口小学校】

① 実施日時 平成30年1月25日(木) 9時30分～11時20分

② 対 象 5～6年生 65名  
3～4年生 78名

③ 派遣オリンピック 田中 和仁 氏

(体操 2012ロンドンオリンピック男子団体総合 銀メダル)

④ 事業内容 (講演・実技)

9時30分～ 開会及び講師紹介

9時35分～ 講演【5～6年生】「オリンピックに向けての道のりと体操から学んだこと」

10時05分～ 質疑応答

10時10分～ 写真撮影・謝辞

10時15分～ 休憩

10時35分～ 実技【3～4年生】

11時10分～ 質疑応答

11時15分～ 写真撮影・講師挨拶

11時20分 終了

平成30年1月25日、宮古市立山口小学校において、2012ロンドンオリンピック体操競技男子団体総合銀メダルの田中和仁さんをお招きし、講演と実技が実施されました。

講演では、自己紹介の後、すぐに銀メダルを子供たちに見せてくださり歓声が上がりました。講演の最後には、全員がメダルに触りその重さを実感していました。

田中さんからは、初めにスポーツに限らず勉強などにおいても、大会あるいはテストの時だけベストを尽くすのではなく、それまでの練習や勉強、普段の生活においてもベストを尽くすことが大切であるということについて、ロンドンオリンピックの前の北京オリンピックの代表選考会の際の経験をもとに話されました。北京オリンピックの代表選考会では、「オリンピックに出たいな、出られたらいいな。」程度の気持ちだったために、代表に選ばれず悔しい思いをしたため、ロンドンオリンピックに向けては「絶対に出るぞ。」という覚悟を決めて、4年間の練習はもちろん生活においてもベストを尽くして取り組んだことによってロンドンオリンピックに出場することができたとのことでした。「練習は試合のように、試合は練習のように」取り組むことによって、試合で起こるいろんなハプニングや変化に対応できるようになること、体調が悪くても予定していた練習をこなせるような力も必要なことについても話されました。

次に田中さんは兄弟で同じ体操競技をしており、お互いに気持ちがわかり、辛い時でも助け合って競技をすることができたので、仲間は大切にしてほしいということ、ライバルもいるからこそ試合ができるし、自分にはないものを盗んだり、自分にあるものをライバルに教えたりすることによってお互いの成長に繋げることができるので、ライバルも大切にしてほしいということをお話されました。

さらに、スポーツや自分がしたいことができるのは、親のおかげであり、今日帰ったら感謝の気持ちを伝えてほしいこと、自分の最後の演技は自分のためではなく、親や兄弟、応援してくれている人、みんなへの感謝の気持ちをもって演技した時、自分にとって一番満足した演技ができたことについて話されました。はじめは自分のためでもいいけど、最後には人のために頑張れる人になってほしいとのことでした。

最後に夢をもつことの大切さについて話されました。子供からは「いろいろな人を助けられる薬の研究者になりたい」との発表がありました。自分がそうだったように、人に何を言われても強く思うことが夢

を実現するために必要なことについて話され、今夢がある人はそれに向かって頑張してほしいとエールを送っていただきました。

この後、体操競技についての質問があり、体操競技のオールラウンダーとスペシャリストや田中さんのあこがれていた選手についてのお話から、子供たちは体操競技への理解を深めることができました。また、体操を始めたきっかけやロンドンオリンピックの経験などについてもお話しいただきました。

5、6年生の写真撮影の後、3、4年生が実技を行いました。いろいろなストレッチやバランス、前転や開脚前転、側方倒立回転などに挑戦しました。側方倒立回転では、苦手な方の回転にも取り組んでみました。最後に倒立前転と後方回転の模範演技を子供たちの前で見せてくれました。写真撮影後、メダルを見せてもらいながらハイタッチをして、子供たちはお別れをしました。



(6) 【山田町立豊間根中学校】

① 実施日時 平成30年1月25日(木) 13時25分～15時25分

② 対象 1～3年生 57名

③ 派遣オリンピック 大山 加奈 氏

(バレーボール 2004アテネオリンピック出場)

④ 事業内容 (講演・実技)

13時25分～ 開会及び講師紹介

13時35分～ 講演「小さなきっかけから大きな夢へ」

14時15分～ 質疑応答

14時25分～ 実技

15時10分～ 謝辞、生徒活動披露

15時20分～ 写真撮影

15時25分 終了

平成30年1月25日、山田町立豊間根中学校において、2004アテネオリンピックバレーボール競技に出場された大山加奈さんをお招きし、全校生徒(57名)を対象として講義及び実技体験を実施しました。

はじめに、大山さんの経歴等について、熊谷校長先生から紹介された後、大山さんからは、187cmの身長を武器に小中高で日本一となり二十歳の時にオリンピックに出場したが、幼いころは、体が弱く、運動

が苦手な子であったことやバレーボールと出会えてよかったことなどについてお話をいただきました。

バレーボールを始めたのは、小学校1年生の時に先輩から誘われたことがきっかけであったが、当時は、喘息により学校を休むこともあり、両親からも反対されていました。そのような中、運動神経抜群で負けず嫌いの妹がバレーボールを始めました。妹に負けないという小さい目標であったが、妹のおかげで練習を休まなくなったことや自分も試合に出たいという目標に向かって頑張ったことにより、小学校で日本一に輝くことができたこと。目標をもって自分を信じて頑張れば夢は叶うと思ったとのことでした。

中学生時代は、バレーボールの練習は一生懸命やっていたがそれ以外は頑張れない子供だったこと。その時、日本一に相応しい人にならなければいけないこと、今の自分は相応しくないと思い、日常の行動を改め、学校の先生から応援されるようになったこと。周りの人に応援してもらえる人にならなければいけない、夢は自分一人では叶わない。親や先生が見ている時だけ頑張った自分であったが、自分で考え行動することの大切さに気づくことができたそうです。

高校時代、日本代表に選ばれたが、当時日本は前回オリンピック大会の出場を逃しており、次のアテネオリンピックは、必ず出なければいけない状況であり、すごいプレッシャーを感じていた。自分の弱さを見せてはいけないと思い、本当の気持ちを隠して強い人を演じていたが、周りには弱い自分を受け止めてくれる人がいることに気づいたそうです。

オリンピックでは、記憶がないくらい緊張して、頭が真っ白、手が震え、足は地についていない状態であった。結果は第5位。選手村で同じ部屋の木村沙織選手と次回はメダルを取ろうと誓い合った。しかし、北京大会は、病院のベッドで迎え、腰の手術により試合に出られなかったそうです。素直にチームを応援できず、自分のことしか考えられなかったが、チームメイトは声をかけて続けてくれ、その言葉にとっても救われたそうです。復帰の際は、チームメイトが喜び、観客席にも自分のために泣いてくれる人がいたこと。友達が悲しんでいたりと、落ちこんでいたら絶対一人にしないで、声をかけてほしいと強調された。バレーボールを通して仲間に出会えたことは一生の宝物であること。スポーツをやる大きな価値は、結果ではなく選手が競技に臨む姿勢、努力の過程が大切であること。大きな夢を持ち信じること。叶う夢に向かった力より、叶わない夢に向かった力の方が皆さんの大きな力になることを強調されました。

実技では、ボールを使った二人組のストレッチ、ゲーム、円陣パスなどのプログラムにより汗を流した。特に、最後に行ったサーブレシーブでは、大山さんからのサーブを生徒が順番にレシーブし、憧れの大山さんからの重みのあるサーブに感激した様子であった。講演会同様、生徒たちは、大山さんの一つひとつの指示をしっかり聞いて一所懸命に取り組む姿勢が印象的であった。

また、大山さんに感謝の意を込め、伝統の応援活動の披露と気持ちのこもった熱いエールが送られた。



(7) 【奥州市立田原小学校】

① 実施日時 平成30年1月30日(火) 13時45分～15時10分

② 対 象 4～6年生 27名

③ 派遣オリンピック 星 奈津美 氏

(水泳 2012ロンドンオリンピック女子200mバタフライ 銅メダル)

2016リオデジャネイロオリンピック女子200mバタフライ 銅メダル)

④ 事業内容 (講演)

13時45分～ 開会及び講師紹介

13時50分～ 講演「水泳から学んだこと」

14時30分～ 質疑応答

14時35分～ 謝辞・記念撮影

15時10分 見送り・終了

平成30年1月30日、奥州市立田原小学校において、リオデジャネイロオリンピック水泳競技女子200mバタフライ銅メダリストの星奈津美さんをお招きし、4～6年生を対象に講演会を実施しました。

はじめに、小石校長先生から、これまでの事前学習の振り返りや、オリンピック・パラリンピック教育や、スポーツの意義・価値について触れながら、本講演会のねらいを児童に分かりやすく伝えていただきました。

児童は、いよいよこの日を迎えたという表情で星さんを迎え入れ、背筋を伸ばし、目を輝かせながら話を聞きはじめました。

星さんは、「選手は、オリンピック村にあるマクドナルドでは全部タダで食べられるんだよ」などと、全児童が興味をもてるような話を混ぜながら、オリンピックとはどのような大会であるかを丁寧に説明しました。

1歳半で水泳を始めたこと、小学校では県大会にも出場できないほどの成績であったこと、母親からは中学校では水泳を続けられないと思われていたこと、中学校でも続けたいと言ったら応援してくれたこと、中3で全国大会には出場できたが入賞するほどではなかったことなど、子供時代を振り返りながら、決して特別な選手ではなかったことを話されました。

それでも努力を続け、高校1年生でインターハイ優勝を果たし、いよいよオリンピックの夢が明確になってきた矢先、バセドウ病を発病しました。しかし、このことが、当たり前のように練習に打ち込める環境のありがたさに、初めて気付くきっかけとなりました。「こうやってみんなが学校に通えることもありがたいことなんだよ。」と、ときおり児童の生活に寄り添う語りかけがありました。

その後、高校3年生でオリンピック出場を果たしたが入賞はできず、次はメダリストになりたいと思ったこと、世界選手権で3位の選手と0.01秒差で敗れて4位となり、それは神様が、今のままでは勝てないよと教えてくれたのだと考えたことなど、どんなことも前向きにとらえる大切さが伝えられました。

銅メダルを獲得したリオ五輪については、全力を出し切った人生最高のレースとして、映像が映し出され、ゴールと同時に、児童から拍手が送られました。自分の夢は自分一人のものではなく、それを支える家族、指導者、スタッフ、チームメイトなど、みんなが一つの同じ夢に向かって進んでいるという話で講演はまとめられました。

最後は、児童は銅メダルを触ったり、首にかけたりしながら、その重みや輝きを実感し、笑顔で星さんを見送りました。



(8) 【盛岡市立上田中学校】

- ① 実施日時 平成30年1月31日(水) 9時50分～11時50分
- ② 対 象 1年生・特別支援学級1～3年生 139名
- ③ 派遣パラリンピアン 横澤 高德 氏  
(チェアスキー 2010バンクーバーパラリンピック大回転座位出場)
- ④ 事業内容(講演・実技)
  - 9時50分～ 開会及び講師紹介
  - 9時55分～ 講演
  - 10時35分～ 質疑応答
  - 10時50分～ 実技
  - 11時40分～ 写真撮影、謝辞、エール
  - 11時50分 終了

平成30年1月31日、バンクーバーパラリンピックチェアスキー競技男子大回転座位出場の横澤高德さんをお招きし、1年生と特別支援学級1～3年生の計140人を対象に講演会と実技を実施しました。盛岡市立上田中学校では、事前学習として、冬季休業中に生徒一人ひとりが「オリンピック及びパラリンピックに関する情報収集」を行い、オリンピックとパラリンピックの基礎知識を学び、今回の講演会と実技に臨んでいました。

講演会は、はじめに立柳副校長先生から講師の経歴等について紹介がありました。その後、横澤さんから、DVDの映像により自己紹介があり、パラリンピックとチェアスキーのイメージを膨らませてくれるものとなりました。

子供の時の夢は、オートバイのレーサーになりたかったこと。その夢は、22歳の時実現したものの、25歳の時にモトクロス競技において大きなジャンプ台を飛んだ後の着地に失敗し、脊椎を損傷する大きな事故となりました。入院中に考えていたことは、「できないこと探し」をしていたそうです。絶望感の中、気持ちを180度変える出来事がありました。テレビで長野パラリンピックの開会式をみて大きな印象を受けたとのこと。そのような時、両腕と両足のない方と出会い、その方が上手に車いすに乗る、義足を付けて歩く訓練と義手を付けての訓練を行い、さらに煙草を上手に吸う姿に衝撃を受けることとなりました。自分は歩けない、しかし、自分には使える手があり、できることがあるのだと気づいたそうです。この時

から「できること探し」を始めたそうです。上手いいかない時やピンチの時は、できること探しに挑戦すること。できたという瞬間が心の中に小さい自信となり積み重なってくると伝えられました。

チェアスキーとの出会いは、リハビリの先生の勧めによるものでしたが、当時は、自分が障がい者であることを受け入れられなかったこと。しかし、チェアスキーを体験し、滑るたびに褒められ、嬉しくなってきたそうです。事故後、車椅子の生活になり、山の頂上に行って雪景色を見るなんて思ってもみなかったそうです。怪我をする前にバイクにチャレンジしていた闘争心が沸きあがってきたとのこと。その時、自分が怪我をして挑戦する気持ちを忘れていたことに気づかされたそうです。これまで、自分の怪我により、先生、家族、仲間にも助けてもらったことに対し恩返ししたいと思ったこと。バイクではなくスキーによりパラリンピック金メダルを取ることが新しい夢となったそうです。

バンクーバーパラリンピックでの日本チームは、メダルを大いに期待されていましたが、本番では、なかなかメダルには届かなかったそうです。大会中のある日、選手、コーチ、スタッフが集まり、日の丸を揚げたい気持ちでチームが一つになったそうです。次の日からは、メダルラッシュとなり、人と人が力を合わせると無限大の不思議な力となり、皆の力が一つになることで奇跡が起きることを感じたそうです。横澤さんの結果は、大回転21位。怪我をして、ここまで夢の舞台で頑張れたことは、本当によかったこと。スキーと出会い、人と出会い、新しい夢ができたそうです。

最後に、生徒に対し夢や目標を持って挑戦し続けてほしいこと、失敗してもできること探しをして挑戦してほしいことについて強調された

実技は、①各種車椅子について横澤さんからの紹介 ②チェアスキー用チェアに実際に乗り、ターンの際の体の左右への傾きを体験 ③マラソン用車椅子を直接持ち上げて、その軽量感を体験 ④バスケット用の車椅子による各学級対抗リレーを体験等、車椅子の用具に触れ、感じて、楽しみながら実技にチャレンジする姿が見られた。実技後は、生徒代表の謝辞と感謝のエールが横澤さんに送られた。



#### (9) 【花巻市立湯口中学校】

- ① 実施日時 平成30年2月2日(金) 13時30分～15時20分
- ② 対象 1～3年生 108名
- ③ 派遣オリンピック 田中 光 氏  
(体操 1996アトランタオリンピック出場)
- ④ 事業内容 (講演・実技)

- 13時30分～ 開会及び講師紹介
- 13時35分～ 講演「オリンピックで鍛えた体力」
- 14時20分～ 質疑応答
- 14時30分～ 実技
- 15時15分～ 写真撮影、謝辞
- 15時20分 終了

平成30年2月2日、アトランタオリンピック体操競技出場の田中光さんをお招きし、講演と実技が実施されました。はじめに、加藤校長先生から本事業の概要説明と田中さんの経歴等について紹介された後、講演会（1～3年生）、実技（1，2年生）が行われました。

講演会の冒頭、声の体操として、田中さんのことばの後に生徒たちがことばを続ける「続きことば」により、コミュニケーションが図られ、会場内はリラックスした雰囲気となりました。その後、ジャンプやバランス等の運動、足のステップ練習そして田中さんが作詞作曲された音楽に合わせてステップダンスの指導をいただきました。

講演会では、現在、流通経済大学の教授として、教員養成に関わるとともに、体操教室を開き約1,000人の会員への指導を行っていることについて自己紹介がありました。また、幼いころは、特に体操とピアノ・アコーディオンに取り組みれていたそうです。現在のスポーツと芸術の二刀流の原点は、幼少期から始まったようです。

運動は、環境と対時関係の中で発達されるものであり、施設環境、人的環境などの横の関係を整えることが大事であると話されました。また、運動能力は、10歳までの神経系発達や体を操る能力が大切であり、運動習慣の適齢期として、ゴールデンエイジの9歳～12歳であること。運動能力は遺伝ではなく、後天的な要因が90%であることについてご指摘されました。

体操競技の紹介では、体操を英語で表記すると「ARTISTIC GYMNASTICS」となり、「芸術だけど スポーツ!」と訳されること。技だけではなく、どのように体を操るのか。どのように表現するのか。感動させられるのか。体操はスポーツの最高芸術であることを強調されました。また、オリンピックで10点満点を連発した「ルーマニアの妖精」コマネチ選手の体操は、表現力が豊かで美しい体操により世界を魅了しました。田中さんは、平行棒でオリジナル技となる「タナカ」を発表し認定されています。前転のメカニズムとしては、芸術的に小さな動きから大きな動きに見せること。技をどのように見せるかが大事であり、芸術的な動きはAIでは対応できないのではないかと話され、実際に生徒の前で前転を披露しました。

最後に、「オリンピックで鍛えた体力」と題して、1992年のバルセロナオリンピックを怪我で出場できず、落ち込んでいる時に、ある先生から「諦めないこと」「よく考え行動すること」「創造」の3つのことばをいただいたこと。このことばにより、もう一度自身を見直すきっかけとなり、アトランタオリンピックに繋がったこと。是非、自分なりの勉強法や将来の設計等について、この3つのことばを参考にしてほしいと話されました。

実技のマット運動では、前転、開脚前転、伸膝前転にチャレンジし、美しい前転、芸術的な10点満点を目指しました。その後、マット運動では、側転とロンガード、跳び箱運動では、開脚飛びを繰り返してチャレンジする姿が印象的でした。実技後は、全体写真を撮影し、生徒代表者から田中先生から学んだことを学校生活に活かしたい旨、謝辞が述べられました。





(10) 【久慈市立山形中学校】

- ① 実施日時 平成30年2月5日(月) 13時50分～15時00分
- ② 対 象 1～3年生 53名
- ③ 派遣オリンピック 大山 加奈 氏  
(バレーボール 2004アテネオリンピック出場)
- ④ 事業内容 (実技)
  - 13時50分～ 開会及び講師紹介
  - 13時55分～ 講演「小さなきっかけから大きな夢へ」
  - 14時15分～ 実技
  - 14時55分～ 質疑応答
  - 15時05分～ 記念撮影・謝辞
  - 15時10分 終了

平成30年2月5日、久慈市立山形中学校において、2004アテネオリンピックバレーボール競技に出場された大山加奈さんをお招きし、講演及び実技を実施しました。

はじめに、大山さんの経歴等について紹介された後、大山さんからは、187cmの身長があり体が大きくて苦勞もしていない、いい思いしかしていないと思われがちだが、実は幼い頃は、喘息であったため体が弱く運動が苦手な嫌いな子であったこと、家に閉じこもってばかりで友達もいなく自分に自信がもてない子供であったことが話されました。今こうやって人の前に立って話をしているが、子供の頃の自分を知っている人はびっくりするだろうとのこと。自分を変えてくれたバレーボールと出会えて本当によかったし、今日はそのバレーボールからもらったたくさんの宝物をみんなに伝えたいとお話しされました。

その一つは、何事も全力で頑張ることが大切であること。小学生で日本一になって、大山さんは中学生でも日本一になりたい、そしてオリンピックにも出たいという夢をもったのですが、中1、中2とあと一歩のところまで日本一になれなかったということでした。中3となってキャプテンとなり、どうしたら日本一になれるか考えたそうです。当時の大山さんは一生懸命バレーボールを練習していたが、授業中は寝ていたり机の下で漫画本を読んでいたりと、先生の話も聞かない、家では洗濯物もたたまないような中学生であったそうです。でも、これではだめだ、日本一になりたいというのなら、日本一に相応しい人間にならなければならないということに気付き、学習態度も生活態度もすべて変え、中学生でも日本一になったと

き、何事にも一生懸命やることの大切さを実感したとのことでした。そしてこのことによってもう一つ変わったことが、先生方からの応援をもらえるようになったことだそうです。目標に向かって何事も頑張ることによって応援してもらい優勝できたことから、応援してもらえるような人間になることも大事なことであり、気付かされたそうです。目標に向かってどうすればいいのか自分で考え、自分で気付き行動することの大切さについても強調されていました。

もう一つは仲間の大切さ。日本一になったことやオリンピックに出たことよりも大事なことだそうです。北京オリンピックにけがで出られず孤独で不安な中、仲間が励まし続けてくれたことによって、辛く苦しいけがとの闘いを乗り越えられた時やけがを克服しコートに立って仲間が涙を流して喜んでくれた時、仲間の大切さを実感したそうです。今でもその仲間は、自分につらいことがあったり悩んだりしたとき傍にいてくれるのだそうです。この仲間は一生の宝物であり、みんなにも宝物である仲間がすぐ隣にいることに気付いてほしいし、大切にしてほしいとお話しされました。

最後に、夢や目標をもつことは夢をかなえられなかったり挫折したりした時つらい思いをするけれども、それに向かって頑張ることによって、人生を豊かにしてくれることをお話されました。また、夢や希望は頑張れば必ず叶うものだとは言えないこと。でも、夢に向かって頑張ることに意味があり、大山さんにとってそれが原動力になっていることを話されました。

実技では、ボールを使ったストレッチやゲームなどに取り組みました。また、大山さんからのサーブを順番にレシーブする場面もありました。最後には、大山さんの本気のアタックによりボールが天井近くまで跳ね上がる様子を見て、生徒はその威力を肌で感じる事ができました。

生徒代表のお礼の言葉、写真撮影の後、全校生徒とのハイタッチでの退場となりました。



(11) 【岩手県立花巻南高等学校】

① 実施日時 平成30年2月5日(月) 11時00分～12時50分

② 対象 1～2年生 81名

③ 派遣オリンピック 馬淵 智子 氏

(ソフトボール 2008北京オリンピック 金メダル)

④ 事業内容 (講演・実技)

11時00分～ 講師紹介

11時05分～ 講演「Change by Myself」

- 11時45分～ 質疑応答
- 11時50分～ 記念撮影
- 12時00分～ 実技体験
- 12時50分 終了

平成30年2月5日、花巻市に所在する花巻南高等学校において、北京オリンピックソフトボールで金メダルを獲得した馬淵智子さんをお招きし、1・2年生のスポーツ健康科学学系78名とソフトボール部員10名の生徒（計88名）を対象として、講義及び実技体験を実施しました。

はじめに、馬淵さんの経歴等について、日野澤副校長先生から紹介された後、「CHANGE BY MYSELF」と題して、馬淵さんから講義していただきました。馬淵さんの講義では、ソフトボールを始めたきっかけや、ソフトボールから学んだこと、高校生に大切にしてほしいこと等、次の内容が話されました。

- ・ 高校卒業後、実業団チームの日立製作所に入り、当時、シドニーオリンピック代表で活躍していた3人のチームメイトに憧れて、練習の取り組み方や生活の仕方を参考にした。身近な存在のおかげで、オリンピック出場を夢に持つことができた。
- ・ アテネオリンピック（北京オリンピックの前回大会）のときは、日本代表候補に選ばれて練習や試合に招集されていたが、オリンピック直前で最終メンバーから落選した。このときに、ソフトボールを止めようと思ったが、自分がアテネオリンピック代表から落選したことを悲しむチームメイトを見て、その人たちを笑顔にしたいと思い、北京オリンピックを目指した。
- ・ アテネオリンピック代表から落選した当時は、プレーでは成長していたが、精神的に弱く、マイナス思考が多かった。しかし、マイナス思考だからこそ、それをプラス思考に変えられるよう、「自分の何を変えたら前に進むことができるのか」と様々なことを考えたり、工夫したりして取り組んだ。
- ・ 高校生の皆さんには、小さな夢でもいいので、自分の夢を口に出して、人に伝えることを大切にほしい。夢を隣の人に伝えるだけでも前に進むことができる。日頃から、意識的にプラスの発言をして、夢に向かって頑張してほしい。

続いて、実技体験では、柔らかいボールを用いて、キャッチボールやトスバッティングを行いました。トスバッティングでは、実際に馬淵さんがバッティングを披露し、日本を金メダルに導いた力強いスイングに歓声が沸きました。

また、実際に獲得した金メダルが披露され、すべての生徒が手に触れることができました。生徒たちは、感触や輝きに感動を覚えるとともに、メダルの重さから馬淵さんの努力の価値も同時に感じることもできました。



(12) 【一戸町立鳥海小学校】

- ① 実施日時 平成30年2月6日(火) 10時35分～12時05分
- ② 対 象 1～6年生 27名
- ③ 派遣オリンピック 大山 加奈 氏  
(バレーボール 2004アテネオリンピック出場)
- ④ 事業内容 (講演・実技)
  - 10時35分～ 開会及び講師紹介
  - 10時40分～ 講演「小さなきっかけから大きな夢へ」
  - 11時25分～ 実技
  - 12時00分～ 謝辞、写真撮影
  - 12時05分 終了

平成30年2月6日、一戸町立鳥海小学校において、アテネオリンピックバレーボール競技に出場された大山加奈さんをお招きし、全校児童(27名)を対象として講義及び実技を実施しました。

はじめに、南校長先生から大山さんの経歴等についての紹介と併せて一戸町鳥海地区出身で「日本オリンピック委員会委員長」としてスポーツ界のトップで活躍された「柴田勝治さん」の紹介がありました。

講演会に先立ち、中学生のバレーボールを長年指導された校長先生と大山さんの身長比べが行われ、190cmの校長先生に軍配が上がりました。その後、大山さんが小中高で日本一となったプレーを映像ビデオにより視聴し、事前学習で学んだ大山さんの競技実績を再確認することができました。小学校6年生で日本一になった時の身長は175cmあったそうです。

幼いころの大山さんは、運動が嫌いで運動が苦手な子であったそうです。鉄棒の坂がりや縄跳びの後跳びができなかったそうです。

小学校1年生でバレーボールを始めましたが、当時は、喘息により学校を1年で50日も休むことがあり、両親からも反対されていました。そのような中、運動神経抜群で負けず嫌いの妹がバレーボールを始めました。大山さんより先にレギュラーとなり、大活躍する妹に負けないという小さい目標が芽生えたそうです。その後、練習を休まなくなったことや自分も試合に出たいという目標に向かって頑張ったことにより、小学校で日本一に輝きました。目標をもって自分を信じて頑張れば夢は叶うと思ったそうです。

中学生時代は、バレーボールの練習は一生懸命やっていたが授業中に寝ていたり、ノートも取らなかつたそうです。その時、日本一に相応しい人にならなければいけないこと、今の自分は相応しくないと思い、日常の行動を改めたそうです。周りの人に応援してもらえる人にならなければいけない、夢は自分一人では叶わない。自分で考え行動することの大切さに気づくものとなりました。

高校時代には、日本代表に選ばれましたが、当時日本は前回のオリンピック大会出場を逃しており、次のアテネオリンピックは、絶対出なければいけないという大きなプレッシャーがあったこと。そのような中、自分の弱さを見せてはいけないと思い、本当の気持ちを隠して強い人を演じていたが、周りには弱い自分を受け止めてくれる人がいることに気づき、気持ちが楽になったそうです。苦しいこと、壁にぶつかることに対して自分の力で乗り越えようとするのは大事だが、乗り越えられない時は、周りの友達に辛いこと、苦しいことを話してほしいこと。周りの人に話す勇気を持ってほしいことについて語られました。

アテネオリンピックの第5位という結果は、とても悔しいものとなりました。次の北京オリンピックでは、腰の手術により試合に出られませんでした。大山さんの代わりに出場した選手の活躍を喜べなかったこと、チームに対しても応援できず、自分のことしか考えられなかったそうですが、チームメイトはいつ

も声をかけて続けてくれました。友達が悲しんでいたり、落ちこんでいたら絶対一人にしないで、声をかけてほしいと子供たちと約束をしました。 バレーボールを通して仲間に出会えたことは一生の宝物であること。大きな夢を持ち信じること。叶う夢に向かった力より、叶わない夢に向かった力の方が皆さんの大きな力になること。皆さんは可能性を持った人たち、皆さんの夢が叶うよう応援しているとのエールをいただきました。

実技では、全校児童27人により特別ルール「だるまさんがころんだ」から始まり、ソフトバレーボールを使った二人組の運動などのプログラムを元気いっぱいに取り組む姿が印象的であった。最後に大山さんのサーブを児童が順番にレシーブし、大山さんとの交流をさらに深めることができました。

最後に、代表児童から、現在スポ少で野球をやっているが、今日の実技でバレーボールに興味をもった旨、お礼の言葉が述べられました。大山さんからは、児童一人ひとりと握手を交わし、大変有意義な一日を過ごすことができました。



### 3 全国フォーラム

#### (1) 仙台会場（筑波大学 1/21）

- ① 盛岡市立上田小学校
- ② 宮古市立山口小学校
- ③ 一戸町立鳥海小学校

#### (2) 東京会場（日本体育大学 2/10）

- ① 盛岡市立上田中学校
- ② 花巻南高等学校

### 4 実践報告会

平成30年2月15日（木）、サンセール盛岡において「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業（教育地域拠点）」（平成29年度）実践報告会が早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センターの吉永武史主幹研究員、岡田悠佑同研究員、各教育事務所担当者4名、岩手県オリンピック・パラリンピック教育推進校より11名、希望参加校から3名の先生方の出席により開催されました。

シンポジウムは、2012ロンドンオリンピックフェンシング競技男子フルール団体銀メダリストの千田健太氏と2010バンクーバーパラリンピックチェアスキー競技男子大回転座位に出場された横澤高德氏をお

招きし、『ROAD TO TOKYO2020』のテーマのもと、スポーツの価値への理解と多面的な教育的価値について、校種を超えた意見交換を図るとともに、岩手からオリンピック・パラリンピック・ムーブメントを発信することとなりました。

#### 【開催概要】

日 時 平成30年2月15日（木） 13時30分～16時30分

会 場 サンセール盛岡

主 催 岩手県教育委員会

協力機関 早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

参加者 25名

内 容

13時00分～ 受付

13時30分～ 主催挨拶

荒木田光孝（岩手県教育委員会事務局保健体育課総括課長）

13時35分～ グループごとの実践報告・協議・発表

14時45分～ 講評

吉永武史氏（早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター 主幹研究員）

岡田悠佑氏（早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター 研究員）

15時15分～ シンポジウム『ROAD TO TOKYO 2020』

千田健太氏

（2012ロンドンオリンピックフェンシングフルーレ団体銀メダル）

横澤高德氏

（2010バンクーバーパラリンピックチェアスキー大回転座位出場）

吉永武史氏

（早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター 主幹研究員）

16時25分～ 連絡

実践報告会の冒頭、主催挨拶として荒木田光孝保健体育課総括課長より、本年度の事業では、推進校として小学校5校、中学校5校、高等学校2校の計12校を指定し、様々な体験や活動を通して、オリンピック・パラリンピック・ムーブメントの普及・推進を図ったこと。本日は、オリ・パラ教育の成果を発信するとともに、スポーツの価値への理解と多面的な教育的価値について、校種を超えた意見交換を図られるよう期待している旨の挨拶がありました。

グループごとの実践報告・協議・発表では、3グループに分かれ、推進校の実践内容、成果と課題、さらに来年度以降の効果的なオリ・パラ教育の進め方・アイディア等についてグループ協議されました。

発表では、各グループから代表者を選出し、代表的実践の紹介、今後の課題等について発表いただきました。

宮古市立山口小学校の吉田先生からは、小学校では総合学習、中学校では保健体育の時間で実施されたこと。取組内容としては、事前学習としてオリ・パラの意義や歴史及びお招きするオリンピックアンについて学んだこと。講義と実技を実施し、その内容は児童生徒に興味関心を持たせるものであり大変刺激を受けたこと。事後学習は、スポーツ及び競技のみならず生き方について学ぶことができたこと。課題として

は、東京大会までの関わり方の具体的な姿までは示せなかったことが述べられました。

盛岡市立上田中学校の佐々木先生は、成功までの道のりには、挫折や苦労があったこと。粘り強さ、諦めないこと。周りの人への感謝等について、子供たちが身近なものとして考えることができたこと。課題としては、今後継続していくことの難しさ、学校全体で共有の難しさ及び教育課程の位置付けについてご指摘をいただきました。

山田町立豊間根中学校の平野先生は、事前学習は、グループごと学習、復興教育と併せた活動、道徳からアプローチなど、それぞれの特色のある学習となったこと。講演・実技については、児童生徒のこれからの生き方、生徒の将来に関わることや成長に役立つものであったこと。課題としては、事前学習の工夫、アスリートとの話す内容のズレがあったこと、長期スパンでの継続的な取組。今後どのような形で展開していくのかなどが示され、学校も生徒も前向きに取り組めた事業であったとまとめられた。

講評では、吉永主幹研究員からオリ・パラの価値を子供たちにどう伝えていくかについてご教示いただきました。

本事業は、オリンピック・パラリンピアンからの招聘で取組が終わるケース多いが、教科以外の活動から生きる力を学ぶ絶好の機会であり、オリンピック・パラリンピアンからのメッセージは心に響くものであること。スポーツでも勉強でも頑張れば道は拓けることを伝えたい。

事前学習から授業につなげる工夫として、事例発表で示された学習カードのまとめや2年後の修学旅行での学習は、深い学びにつながるものであること。1回の事業だけで終わらせないためどうしたらよいか。2020年以降、レガシーをどのように残していくのか考えていかなければいけないと強調されました。

また、指導要領の改訂によりカリキュラムマネジメントが大事であること。日常的なものとして進めることが求められること。中高では、保健体育科が担当することが多いが、学校全体で実施する共通意識を高めていくことの必要性を話されました。

講評後、岡田研究員から全国の事例紹介がありました。①広島県では、本授業後の持久走大会に向けた走りのポイント指導を実施したこと。②札幌市では、社会科の事業に事前学習を位置付け、公共施設活用について学び、実際に施設に行ってみたこと。③岩手県では、体育理論において陸上競技のリレーの戦術と技術と関連付けてバトンパスの内容について学んだこと。④岐阜県では、文化祭の展示と結び付け、オリパラコーナーを設置したことなどについて説明され、今後のオリ・パラ教育の道筋を示された。

シンポジウムでは、始めに千田健太氏からフェンシングのフルーレ、エペ、サーブルについての自己紹介がありました。父親もフェンシング選手で、モスクワオリンピックフェンシング日本代表に選ばれましたが、日本のオリンピックボイコットで大会に出場できなかったこと。その父による特訓によって右利きから左利きに変えたことなどフェンシングをやるきっかけについてお話しを頂戴いたしました。また、震災後のロンドンオリンピックについて、さまざまな想い中でフェンシングに向き合ったことやオリンピックでのご経験や学ばれたことについてお示しされました。

次に、横澤高德氏からは、経歴等について自己紹介がありました。チェアスキーを始めたきっかけは、リハビリの先生の勧めによるものであったこと。当時は、自分が障がい者であることを受け入れられなかったが、自分の怪我により、先生、家族、仲間にも助けてもらったことに対し恩返ししたいと思ったこと。夢と希望を見失って生きる力も湧いてこない状況の中、チェアスキーは、夢や目標をもち、挑戦する価値を感じさせてくれるものとなりました。

両氏のご講義後、吉永先生にシンポジウムをコーディネートしていただき、千田氏、横澤氏にいくつかの質問がなされました。東日本大震災時の対応について、千田氏は、フェンシングどころではなくボランティアとして活動したこと。何もできない自分ではあるが、フェンシングで周りの方々に元気づけられる

のではないかと考えたそうです。横澤氏は、マイクロバスで岩手県の物資センターの物資を積んで被災地へ訪れたが、現地の方々の温かい言葉に自分も勇気もらったこと覚えていること。障がいがあるなしに関わらず人と人のつながりをどのように接していくかを考えさせられたとのこと。

また、各学校でのオリ・パラ教育の授業により感じたことについて、千田氏は、フェンシングの動きがわからないことが多いが興味をもって始めてくれればうれしいこと。自分が小学校の時、柔道の古賀選手が訪問され、インパクトがあり今でも覚えていること。横澤氏は、いろいろな車椅子を紹介したが、パラスポーツの道具に接する機会がないと思うのでできるだけ紹介したいこと。子供たちに伝えたいこととして、千田氏は、負けから多くのことを学び、負けた時にどのように振る舞うのか、お互いに高め合うことがスポーツの良いところと話され、横澤氏は、夢や目標に向かって挑戦するプロセスの大切さを伝えたいと示されました。

